

アフリカの女性起業家を支援するシンポジウム開催

01



会場ではアフリカの女性たちの色鮮やかな民族衣装が映えた



パネルディスカッションに参加する南アフリカのカリさん、日本の渡辺さん、アメリカのオハジュルカさん

2013年6月に横浜で開催された第5回アフリカ開発会議（TICAD V）で発表された日本の支援策の一つ、「日アフリカ・ビジネススウーマン交流プログラム」の第一弾として、1月26日から2月6日にアフリカ7カ国から14人の女性起業家らを招き、「アフリカ女性起業家支援セミナー」が開催されました。参加者は横浜市や相模原市、広島県などの行政サービスや女性起業家同士の相互サポートの事例を視察し、地域に根差した日本の女性起業家と意見交換を行いました。

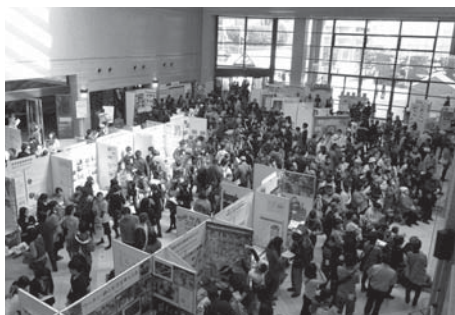
2月3日には、このセミナーの総括および対外発信の機会としてJICAと横浜市が「アフリカの輝く女性とともに成長を」をテーマにしたシンポジウムを共催。冒頭であいさつした田中明彦JICA理事長はケニアでの農業支援プロジェクトを取り上げ、「ジェンダーの視点を大事にしながらアフリカ10カ国に展開していく」と紹介。基調講演では、林文字横浜

市長がビジネスに女性が参画する意義を強調し、キャロライン・ケネディ駐日アメリカ大使も「女性のエンパワーメントを優先課題に掲げる日米で連携していく」と述べました。日本企業によるアフリカでのビジネス事例として紹介されたのは株式会社サカタのタネ。JICAとの連携で進めるBOPビジネスとして、南アフリカの農村で野菜栽培技術の研究を実施しています。田崎正光取締役は「農村の女性起業家を支援していきたい」と話しました。

シンポジウム後半には、エチオピア、タンザニア、南アフリカ、アメリカ、日本の女性起業家によるパネルディスカッションが行われ、起業の経緯やビジネスを通じて目指しているものなどを紹介。ほぼ全員が資金へのアクセスを課題に挙げ、南アフリカのボンゲウエ・カリさんは「困難はありますが、私たちのビジネスで国を変え、可能性を花開かせましょう」と力強く呼びかけました。

大阪で「ワン・ワールド・フェスティバル」開催

02



NGOなどのブースが並び、多くの来場者でにぎわった

1993年から毎年開催されている西日本最大の国際協力イベント「ワン・ワールド・フェスティバル」。今年も2月1日、2日の2日間、大阪国際交流センターで開催され、約1万7500人が来場しました。

会場内には、150近くのNGO、政府機関、国際機関、教育機関、企業など、多種多様な団体が出展しました。各ブースで開発途上国の課題解決に向けた取り組みを紹介した他、ワークショップやセミナー、講演会など、国際協力に触れるさまざまな機会を提供していました。

大ホールでは、「なんとかしなきや！プロジェクト」メンバーであるタレントのルー大柴さんが登場。昨年8月に訪問したフィジーの現状や現地で活躍する日本人の姿などを報告し、日本の国際協力の重要性を分かりやすく来場者に伝えました。

「世界の笑顔のために」プログラム 物品募集中

03



マラウイに届けられた鍵盤ハーモニカ

「私はもう使わないけど、まだ使えるな」。そんな物品があったら、「世界の笑顔のために」プログラムに参加してみませんか？

教育、福祉、スポーツ、文化などの分野で、開発途上国で必要としている物品を日本国内で募集し、JICAボランティアを通じて各国に届けるこのプログラム。個人でももちろん、学級活動の一環や、企業、地域で集めるなど、参加の形はさまざまです。

なわとびやバスケットボールなど、あなたの身近にあるものが国際協力の一歩になります。たくさんのご応募をお待ちしています。

【参加申込書受付期間】4月1日（火）～5月9日（金）

【問い合わせ】青年海外協力隊事務局「世界の笑顔のために」プログラム係

【TEL】03-5226-9196
【URL】www.jica.go.jp/partner/smile/